

亀山 正邦 編

脳卒中治療マニュアル

(B 6 判 356 頁 5,768 円 (税込) 1990 年 医学書院 刊)

平川 公義

(東京医科歯科大学医学部脳神経外科)

困るんだなあ、こんな本が出る
と、鬼軍曹たちの呟きである。ど
の大学の、どこの教室でも、要領
の良い手合いがいるものである。
「えー、この症例は……、症候の特
徴と CT 所見とから……、診断は
しかじか、強いて分類すれば……
斯くかくの如くとなります。因みに、
myseary perfusion とは……」。何
処で仕入れたのかソツがない。虎
の巻だか、安ちょこがあるはず
なのだが、それを感じさせない。
どうせ昨夜の入院だ。調べる暇は
あるまい。少し絞ってやるかと考
えたとすれば、先輩の面目は丸潰
れだ。本書を白衣のポケットに忍
ばせ、直前に斜めにみるだけで、
回診はチョロイもんだ。病歴だっ
てすぐ書ける。指導者泣かせ。必
要なことは網羅してある。本書に
は、内科系・外科系の当代のトッ
ププロの手によって最新の知識が
まとめられているのだ。

どの施設でも、あとで調べると

き、病歴記載が不備で、うまく統
計が取れなくて困ることがある。
そこで、病歴にせめてこれだけは
記載して欲しいと、分類一覧を載
せたマニュアルを作るのだが、こ
れがなかなか上手くできない。本
書はまさにこれを意図している。
脳卒中ならば、このマニュアルが
あればよい。

本書では、超急性期を中心に、
脳卒中の緊急処置、診断、鑑別、
ICU 管理、手術法がまとめてあ
り、慢性期のリハビリテーション
に到るまで、最新の知識が披露さ
れている。文章は、簡潔に箇条書
を主体として、具体的かつ明快に
記されている。発作を起こした患
者が搬入されたときに行われる診
断手順に従って、まず緊急処置 /
次いで問診、神経学的診察法、緊
急検査、鑑別診断へと続く。時
には図解入りの説明もある。重点
項目はかこみ欄で強調され、薬物
療法の場合には、用法は実務的に記

載されている。画像診断は、CT、
MRI のほか、PET についても要
点が記されている。必要な分類は
表にまとめてある。治療上問題と
なる合併疾患についても詳述さ
れ、診断や処置のポイントは数値
で示され、便利である。ICU での
モニターについても、理解できる
よう工夫されている。手術適応、
特に患者搬送の判断についても書
いてある。手術については、外科
系と内科系の筆者によって、微妙
な差があるのも面白い。脳死判定
法まで付いている。本書の後半は、
急性期から亜急性期、やがて慢性
期と経過する間の治療上の要点の
記載である。社会復帰に備えて、
精神神経能力判定上の問題点ま
で、ソツなく採り上げられている。
所々には、解説記事もあり、初学
者に対する用語の解説としても役
立つ。

本書は、序文にもあるように、
どの頁を見ても、記憶の確認と知
識の整理にもってこいである。ポ
ケットに入る実用的なマニュアル
とはいうものの、実務的な教科書
といってよいくらいである。手術
成績に出版不明の統計表が載っ
ているのが、唯一、惜しまれる点で
あろうか。